# 志布志港

鹿児島県土木部港湾空港課

〒890-8577　鹿児島市鴨池新町10-1
☎099-286-2111㈹
URL：http://www.pref.kagoshima.jp/infra/port/minato/shibushi/index.html

## 1．概　　況

＜志布志港の歴史＞

志布志港は、九州東南部の志布志湾に位置し、鹿児島県東部地域を背後圏とする重要港湾である。中世から近世初期にかけては倭寇の九州東南部における根拠地であった。江戸時代においては志布志港を中心とした海上交易が盛んになり、背後地である志布志町は「志布志千軒の町」とうたわれるほどの町並みを形成していた。

しかしながら、明治になると、国の開港政策により全国の港の門戸が開かれたことや鉄道等の陸上輸送体系の整備に伴い、長い歴史を有する海運業も次第に衰退していったが、その後、昭和初期には阪神諸港との航路開設や国鉄都城～志布志線の開通などにより、当時としての大型船の寄港も見られるようになった。

＜大規模な港湾の建設＞

志布志港の本格的な港湾整備が始められたのは、昭和30年以降であり、最大1,000DW級の船舶が接岸可能な岸壁や外郭施設等の整備が行われ、現在の本港地区が形成された。

さらに、背後地域とを連絡する陸上輸送体系の整備も進み、本港における取扱貨物量の増大に伴い、昭和44年には鹿児島県東部地域の流通拠点港湾として重要港湾に指定され、港湾施設の整備が進められた結果、昭和55年には15,000DW級の船舶が接岸可能な外港地区ふ頭が完成した。

しかしながら、大阪～志布志を結ぶ定期フェリーの就航や大型外貿船の入港などにより、さらなる取扱貨物量の著しい増大や入港船舶の競合等に対応するため、若浜地区に水深12m岸壁１バースをはじめとする大型係留施設や54haの臨海工業用地を中心とした大規模な埋立地造成を計画し、昭和60年に完成している。この若浜地区の臨海工業用地には大規模な配合飼料工場や関連企業が立地し、現在では、背後の日本有数の農畜産地帯への飼料ターミナルとして機能を発揮し、地域の経済発展に大きく寄与している。このほか、昭和62年４月に開港指定を受けて以来、平成元年10月に検疫港の指定を受けるなど、現在ではCIQ機能を完備した港湾となっており、多くの外航船が入港している。

＜国際物流拠点港としての志布志港＞

平成20年に策定された「かごしま将来ビジョン」において、「国内外を結ぶ交通ネットワークの形成」を目指している鹿児島県は、アジア地域を中心とした、世界の国々との交通ネットワークの形成を積極的に促進し、世界に広がる南の交流拠点づくりを進めることを展開方策の一つとして位置付けている。

また、平成元年には東南アジア方面、平成７年には中国、平成15年度には韓国との間に外貿コンテナ定期航路が開設され、現在では週12便体制となっていることや、平成23年には九州唯一の国際バルク戦略港湾（穀物）に選定されたことに加えて、本港の背後地域においても東九州自動車道や都城～志布志間を結ぶ地域高規格幹線道路などの高速交通体系の整備が推進されるなど、今後、南九州の国際物流拠点として大きく期待されている。

このような状況のもと、本港は海上輸送のコンテナ化の進展や増大する取扱貨物量に対応した南九州の物流拠点としてのより一層の機能充実や、日南海岸国定公園内の美しい海岸線に囲まれたみなとまちにふさわしい魅力ある空間の形成、観光需要の増大等に対応した人流拠点の形成など、多様な要請に対応するため、整備を進めているところであり、南九州における国際物流拠点港としてさらなる発展が期待されている。